

《まちなかボランティア養成講座》継続中！

オリンピック・パラリンピックの開催に向けて企画された、「ちばさぼ」ならではのユニークな「まちボラ」講座。今年度も多くの参加者を迎え開催されています。8月は5日に講義、18日に実習と日を置かず2つの講座が実施されました。本講座は「親切にしたい」という気持ちをなかなか表に出せずにいる「潜在的ボランティア」の背中を押して、地域全体の「もてなし度」をアップさせるのが狙いです。

8月5日の講義では、千葉市観光プロモーション課海外集客班の小亀さおりさんが、元キャビンアテンダントの経験談も交えながら、外国人とのコミュニケーションへの気後れを少し楽に、又一般社団法人千葉市身体障害者連合会会長、高山功一



さんは、パフォーマンスを交えながら、ご自身の障害も含めて「障害の多様性」「どんな風に手を貸してほしいか」を軽快な術語で伝えてくださいました。千葉市民活動支援センターの原田センター長による「ボランティアの基礎知識」、檜浦事務局長の「千葉市の成り立ち」「情報の入手方法」など盛りだくさんで長時間の講義でしたが、みなさん熱心に聞き入っていました。

8月18日は「千葉の親子三代夏祭り前夜祭」を開催中の中央公園が実習会場。外国人のキャストからの質問に笑顔で答えながら、暑い日でしたが、皆さん熱心に、かつ楽しみながら、課題をクリアしたようです。

※次回の講義は11月10日(土)中央区保健福祉センターです。



■ 専門家による個別相談

団体活動は、誠意やエネルギーだけでは解決困難な問題が少なくありません。ちばさぼには、団体が直面する様々な問題について、6つの分野の専門家と1対1で話すことのできる「個別相談」を設けています。相談日は火曜と土曜(祝日は無し)、1回50分の完全予約制(相談日の7日前締切)です。相談日と分野は表をご参照下さい。

税理士相談(加藤達郎氏) 日々の帳簿付け、税務会計、決算書の作り方など、団体会計を基本から

行政書士相談(日野達弥氏) 各種申請書、企画書、実施計画書などの書類作成、団体の活動報告書の作り方など

NPO運営・市民活動入門相談(原田正隆氏) 市民団体やNPO法人の立上げから運営上の悩み、ボランティアを始めたい方の相談など

社会保険労務士相談(中村真理子氏) スタッフの募集、雇い方、待遇、社会保険や給与の支払い方法など

インターネット活用相談(榎本教俊氏) HPやSNSの活用、パソコン周辺環境の整え方などハード、ソフト両面から

広報相談(齋田清孝氏) チラシの文言、発信先、ポスターや看板の工夫など、広報の全般を基礎から応用まで

毎月	火曜日	土曜日
第1	社会保険労務士	税理士
第2	NPO運営・市民活動入門	行政書士
第3	税理士	インターネット活用
第4	行政書士	NPO運営・市民活動入門
第5	広報	

■相談は1回50分、1日2団体まで
18:00~18:50/19:00~19:50

ミニコラム

ちばさぼの風 vol.27 ボランティア 自分に合った 関わりを

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会でのボランティア募集要項が、7月下旬に発表されました。大会組織委員会が募集する「大会ボランティア」と、千葉県など競技開催地の自治体が募集する「都市ボランティア」の2種類があり、活動内容や場所、応募後のスケジュールなど異なる点もありますが、いずれも応募期間は12月上旬までとなっています。募集要項は以下のHPからダウンロードできる他、当センター内にも配架しています。

<https://tokyo2020.org/jp/special/volunteer/>

<http://www.pref.chiba.lg.jp/volunteer2020/>

さて上記のボランティアは、最低限の活動日数が定められていたり、研修への参加が必須だったり、場合によっては応募者への面接を行うこともあるそうです。競技会場や選手村等で活動する「大会ボランティア」は、保安上の問題もあるでしょうからある程度条件が厳しくなるのはやむを得ないと思いますが、まだ開催まで2年近くある今の時点で応募ができる(活動日数を確保できる)という人は限られるのでは?という印象があります。

しかし、「少しでも大会を盛り上げるお手伝いがしたい」

「観戦で千葉に来た人をおもてなししたい」と思っている人は多くいることでしょう。そうした方々が無理なくボランティアに関われるよう、また初めの一步を踏み出すきっかけとしてもらえるよう、当センターでは「まちなかボランティア養成講座」を開催しています。『できる時間に、できる場所で、できる範囲のこと(道案内や観光案内等)をする』人を「まちなかボランティア」と呼び、専門的ではない、誰でも参加できる内容の講座としています。(詳しくは、この頁上部の記事を参照ください。)

ボランティアという言葉は広く認知されている一方、活動分野や内容は様々であること、特別な知識や経験は必要としないものもあること、募集元はなく自発的に取り組めるものもあることなど、その「多様性」はまだ十分に認知されていないように思います。オリ・パラ関連に限らず、当センターには多くのボランティア団体やNPOの情報が 있습니다。無理のない関わり方をすることがボランティアを「楽しむ」ためのポイントと言えます。それぞれの状況や希望に合った活動探しのお手伝いをしますので、どうぞセンタースタッフにお声掛けください。(は)